

## 平成29年度第1回行財政最適化支援専門部会 会議概要

1 開催日時	平成29年6月2日(金) 午後4時50分から午後6時05分	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階 3A会議室	
3 出席者	委 員	坂野部会長、高井委員、石塚委員、大屋委員
	事務局	行政経営課長、同課担当1名
4 議題	(1) 平成29年度行財政最適化支援について (2) その他	
5 配付資料	次第 資料 平成29年度行財政最適化支援について 関係資料	

### 6 会議概要（要点筆記）

議事(1)平成29年度行財政最適化支援について

【事務局】一資料の説明—

【部会長】個別にヒアリングして、それに基づきディスカッションして3の(1)(2)について御意見をいただき検討をしていくことになります。この2回でどういう議論の仕方をしていくか。どんなことができるかとか、そもそもどうして水なのかと議論を始める前に解決しなければいけないことがあれば、お伺いしたいと思います。

【委員】名水ですが、秦野に住んでいる人は御存知ですが、水が湧き出るところで護摩屋敷の話がでましたが、弘法の清水など数箇所ありますね。それぞれ質も違うし、実際、護摩屋敷の水は飲めるのですが飲めない湧水もあります。取水のところで、いわゆる大腸菌が入っていないかとか雑菌が入っていないかなど水質検査をします。そこを把握した上で水ブランドや名水を議論しないと、たとえば、秦野駅近くの弘法の清水に名水だからといってせっかく来ても、そのままでは飲めないとなると想像と違うとなりかねない。きちんと実態を把握した上で、議論していく必要があると思います。この成分について市のインターネットで毎年公開されていますが、その情報も事前にいただきたいです。そのまま飲めるのは4、5箇所くらいですか。

【事務局】数は把握していないのですが、湧水群で名水100選の指定を受けているので、市内に数はかなりあります。

【委員】成分はバラバラで軟水ができるところと硬水ができるところとあります。秦野の水は、それらをブレンドしたものをペットボトルに詰めたのかなと解釈していたのですがどうですか。

【事務局】 昭和60年に秦野盆地湧水群が「全国名水百選」に選ばれました。その後、地下水の中に有害物質が検出され、水を汲み上げて強制的に戻すという作業をして、地下水の浄化を図ったということがありました。一説によると、秦野の盆地の下は礫層でして、芦ノ湖の1.5倍くらいの水を抱え水盆のようになっているということです。説明にもありましたが、地下水保全条例を作つて、水を守るための規制をしています。一方で、名水を売ろうとすれば、守っているものを売つていこうという取り組みなので、スケジュールの第2回に市の現状とありますが、まずヒアリングで御意見をいただく前に、市の規制や現状を委員の皆さんに説明させていただき、現状把握をしていただいたうえで、個別の事業を見ていくという展開で進めていきたいと考えています。

【部会長】 秦野の水の価値をどう訴えるかという話をした時に、生態系を含め、地質学的に循環の中で長い間水が動いてきたという話と、その上で人間がどう暮らしてきて水質を守ってきたのか、あるいはどういう危機を乗り越えてきたのかといった文化歴史的ストーリーがあって、それを整理して現状のところでのお話を伺いできると思います。地下水の構造がどうなっているか、また、その上でどういう活動をしているかといったことと関係していく、その結果水の性質がどう違うかなど、地下水の問題は複雑ですが、分かっている範囲で現状を整理しておかなければいけないと思います。次回は現状を説明して頂けるとありがたいと思います。ストーリーがしっかりとしていると、それを元にして確かに秦野の水は価値がありそうだと訴えるようなストーリーを作れると思います。

【事務局】 市長はよく秦野は蛇口をひねれば名水が出るとおっしゃられていますが、一部県水も入っているところはありますが、ほとんどが井戸水と川の表流水を取水し浄水したものが水道の水として流れているというような状況です。湧水では飲めない部分はありますが、出てくる水は名水といってよい。そのネームバリューを使って秦野を売り込んでいくツールとして生かしていくにはどうしたらよいかというところの議論をしていただきたいと思います。

【部会長】 秦野の水がよいと確信を持って言うためには、疑問をもっていたら言えませんね。

【事務局】 第2回の会議で、環境保全課でそういった取り組みを続けてきている課長から詳しいお話ができると思います。

【部会長】 丹沢の自然が守られているということとも関係がありそうですね。

【委員】 部会は3部会に分かれていますが、今年から経営専門部会と連携するという話ですが、スケジュールはどうなっていますか。

【事務局】 これとは別に部会長に参加していただく経営専門部会に関して同日はないと思いますが、並行して実施していく中で、新たな取り組みとして例えば最適化支援の中で市として大きなテーマとして取り上げていくべきと意見

が出たら、経営専門部会に持ち上げていきましょう。あるいは、経営専門部会の中でこういうことについて最適化支援部会で議論してほしいというような意見が出たら、今度こちらで議論していただくといった相互の連携を図れたらと考えています。

【委員】 報告書を作る以前の段階で、情報の共有は部会長を介してということですか。

【事務局】 そうですね。こういう意見が出ていますというのを経営専門部会で話していただくという場面も出てくると思います。

【部会長】 経営専門部会でどういう具体的なテーマがあがってくるか、明確に分かっていないですね。

【事務局】 はい。総合計画の進行管理については、はつきりしています。そちらを主にやっていただいているのですが、最終的には市としての経営方針までたどりつけるような意見が出てくればと考えております。この取り組みについては今年度だけでできるかというと、もう少し息長くやっていかないと難しいのではないかと思っています。申し訳ありませんが、経営専門部会では模索させて頂きながら形を作っていくたいと考えています。この最適化支援部会についても、視点を変えたというのは、これから秦野をどうしていこうかという視点で全体が動けるようにというイメージを持っています。

【部会長】 先ほどの市長の話の中で、「わさび」が挙がりましたが、良い水がなければできないという話でしたが、良いわさびがあるから秦野の水は良い水だと認知されるとか、もしくは良い水を使ったからできる製品とかサービスを考えたときに水を中心とした付加価値のあるサービスやプロダクトをつくっていく可能性があるのか。念頭においているヒアリングとしては認証制度という話もありましたが、一般論としては水を使った関連の製品をリストアップしていく、秦野で何が可能かを検討できると思いますが、どうやったらいでしようか。あと2回で何ができるか、どこまでできるかというのが正直なところです。ペットボトル事業化はしっかりとやっているから名水ブランドの活用を考えたときにモノやサービスでどう生かせるかは、イベントやライフスタイルでどこまで議論できるかイメージできません。言いたいことをまとめていうのは2、3回でできると思いますが、それで大丈夫ですか。

【事務局】 現状、議論するに当たっての計画や担当部署がないのも大きな課題だと思っています。そういう意味ではどこまで細かい議論ができるかというと元がない状態なのでなかなか難しいと思います。場合によっては思いついたままということもあるうと思います。可能性という意味でこんなことができるといった意見を伺うのもひとつの議論になるかと思っています。

【部会長】 水という地域資源の付加価値を最大限引き出すのに、どういうふうに価値が生まれてくるかという枠組みのようなものが議論に出てくれば、水

という地域資源の付加価値が出てくる可能性があったときに、全体をどういう組織体制で統括していったらよいのかが委員会に提言としてあって、プラスアルファ例示としてこんなことをやつたらよいのではないかということが出てくればこの委員会は役割を果たしますか。

【事務局】 担当者としてはそういったイメージです。実際、それを受けアクションを起こしていかないと次に進めないと思いますので、枠組みの部分での御意見をいただけたらと思います。

【委員】 各課に所管が多岐にわたっていて、横の繋がりのないということが問題です。まさに一体感がないというのは改善をしていかなければいけないとの一つだと思います。テーマとしては答えが出しやすいかもしれません。

【委員】 水を使った事業はペットボトル事業だけですか。

【事務局】 水そのものを使っている事業ですとペットボトル事業だけです。

【委員】 名水に興味があるのですが、この名水のペットボトルの価格はどうですか。

【事務局】 一本 100 円から 110 円くらいです。

【委員】 高いですね。今、スーパーではアルプスの名水や安曇野の名水は 68 円とかで売っています。対して秦野の名水といって事業として勝てるのか。今後議論していくかも知れませんが、同じようにスーパーに並べてもたぶん勝てないですね。水をブランド化するのだったら、名水ですといつても勝てないし、わさびやお茶でも勝てないと思います。秦野の水で作ったそばといつてもそば粉による影響のほうが大きい、また打つ人や打ち方で変わってしまうので、名水の出てくる余地がないとなるとブランド力が出せないので、名前だけで名水といつてもダメだと思います。そういう議論に持つていけないと良い答えが出せる自信がないです。そのほかの取り組みは事業になっていないですが、最終的には事業にしないといけないのでしょうか。

【部会長】 事業採算性がないとすれば、秦野の水を生かしてわさびなどのほかの産物のバリューをあげれば良いという考え方で割り切るというのもあるかもしれません。それをセットで売り込もうとして水では採算性はないけれど、トータルで考えたらバリューがあがるとシナリオが書ければ問題がないと思います。その判断を 2 回で議論できるかというところです。

【事務局】 これまでも流れの中で決めていただいているので、半分以上が議論になってしまっても、たとえば皆さんが御了承いただき議論でまとめたものを案として送らせていただき、また御意見をもらって成案に近いものを作り、最終の御議論を頂き報告書にまとめていくという方法でも構いませんので、御議論の中で調整させて頂きたいと思います。

【委員】 質問ですが、環境省が行った投票で部門トップという話ですが、ふたを開けてみたら 1 位になっていた感じですか。

【事務局】 結果的に1位になったというのもありますし、市民に呼びかけしたり、市の職員も投票しています。10件手を挙げた中の1位ということになるべくしてなれたというわけではないと思います。

【部会長】 例えば、68円の他の水と秦野の水をブラインドで市民に飲んでもらって、他の水のほうがおいしいとなったら厳しいですね。それを前提にして秦野の水をどう売っていくのか。

【委員】 相当捻らないと、1位から3位は観光地、景観、秘境と人をよべるような部門ですが、おいしさといわれると主観だらうとなります。

【事務局】 個人の主観に左右されるところがありますね。

【委員】 他の水の成分表を見るとほとんど変わらないです。飲んで差を出せるかというと利き酒師がやって分かるかどうかだと思います。

【部会長】 水そのもののクオリティは良質な部分に入っていることが確保され、東京首都圏50キロで自然の豊かなところで育まれている水といった地域性とセットで価値があるといったストーリーを作っていくかないと納得できないと思います。

【委員】 買ってくれないといけないです。

【委員】 おいしさが素晴らしい名水部門というのはペットボトルのことですね。私も県庁時代にいろいろましたが、他の水で南アルプスの水などがありますが、山梨では掘れば富士山の伏流水が出てきます。県水も山中湖からですから富士山の伏流水を飲んでいるわけです。ここの伏流水も富士山か丹沢か分かりませんが、地下水を汲み取るのにそんなにお金がかからないような気がします。ペットボトルの水の価格は水道水の1,000倍なのです。日本は世界でも蛇口の水を飲めるのは珍しいですが、水道の水は県水で山中湖からですから、大元は南アルプスの水と同じことになります。これも秦野の水道局がやっていのですから、水道水と同じ値段にすべきだとそもそも思います。

【事務局】 ボトリング会社に委託していますが、詰め込み料が高いです。水原価は井戸から取水しているので、お金はかかっていないはずです。輸送やボトリングの手間です。商業ベースで乗せるというイメージでつくっていないので、製造数量が年間で何万本ということでかかった原価をできるだけ回収していくこうとすると今の価格設定になっています。

【委員】 大手企業には勝てませんね。

【部会長】 大量生産する予定はないですね。

【事務局】 昨年の28年度に上下水道局等がメインとなり、このペットボトル事業をどうやっていくか議論しています。それについては第2回で資料をお出しして上下水道局のほうから説明してもらう予定でいました。

【部会長】 市の直営でやるのは無理があって、民間企業で権利を与えてあげれば商用としてもよいと手を挙げてもらえば権利を売り渡すというような形で

でしょうか。

【事務局】 それは議論になっていました。さすがにボトリングのために市税を使って設備投資して製造ラインを作るのは無理なので、ボトリングをしている企業にやってもらうしかないけれど、今手をあげてくれるところがないのではということが議論の中心になったと記憶しています。その経過も含めて前段の知識として説明をさせてもらいたいと思いました。

【委員】 横浜市が道志の水を作っていますし、東京も何処の水といってペットボトルを出していますが、理由はなんでしょうか。安心を言いたいのでしょうか。

【事務局】 そうだと思います。だからどこも量を作らない。

【委員】 あとは災害時の備蓄用に水道局が作った水が入っているということですね。

【事務局】 はい、安心な水というイメージなので、どこも水道局を持っているところはそういったセクションがボトル化して使っている。

【部会長】 それで効果は上がっているのでしょうか。

【事務局】 市民の方からみると、秦野の水はどこでも飲めるというイメージはお持ちになっているようです。

【委員】 市民からするとペットボトルの水にまったく魅力を感じないです。

【委員】 ボトルは塩素を抜いているので、明確に味が違いますね。そういう意味では価値はあります但し段ですね。

【事務局】 もう少し下がればと思います。2リットルで100円くらいのボトルはありますからね。

【委員】 それくらいにならないと商業的な意味では価値がでないですね。

【委員】 安心のためであれば、事業の規模は小さいほうが良い気がします。

【部会長】 安心プラス何かできそうかを議論しなければいけないですね。例えば、秦野の水を使ったわさびとか付加価値がついてくれば、高めに売っている秦野のペットボトルの意味があるので、プラスアルファでどこまでいけるかというところですね。

【委員】 販売元は秩父の業者ですが、秦野の業者でいきたいですね。入札にかけて安いところというのは分かりますが、安心のための事業で儲ける話ではないですから、秦野、せいぜい神奈川の西部が良いです。

【部会長】 今のような話をあと2回の中でどこまで具体性をもって議論できるかどうか。次回は秦野の水はどうなのか話を聞いて、確かに神奈川県全体の水道の仕組みを考えると本当に価値があるのかないのかといったことも含め、水道事業についてはどういう議論がなされたかお話を伺ましたが、付加価値をプラスアルファどれだけ付けられるか、秦野の認証制度やプレミアがついているような特産物にはどういうものがあって、それとどう関連付けられるかと

いう議論の素材となるプロジェクトについて御紹介いただければ、ある程度まで議論できると思います。

【委員】 秦野は神奈川では珍しいですね。全国では市町村が事業主体なのが原則ですが、神奈川の市町は県に任せできているという特異性があります。秦野は盆地だからでしょうか、掘れば水が出てくるということからかも知れません。小田原や南足柄は県水です。秦野は独自の水道事業を持ち、県水に委託するよりも自分のところでやったほうがコストが安いのでしょうか。

【事務局】 成り立ちですが、明治に陶管水道を全国で3番目に引いています。自前で水をというのが古くからあったので引き継がれて今があると思います。

【委員】 そういう意味ではブランドはブランドですね。

【委員】 政令市の熊本はカルデラからの地下水を使っていて有名ですね。

【委員】 熊本は結構（環境省名水ランキングに）入っていますね。

【部会長】 どういう意味で差別化できるかどうか調べていくといいですね。

【委員】 熊本などの地下水を使っている全国の水道局はどんな感じなのか。普通は川の水、用水から引っ張ってきて、浄水場できれいにして沈殿させて、塩素を入れる。秦野も地下水をそのまま飲んでいないことは知っています。菌が出てしまうようなことがあったので、必ずろ過させて水道法の基準に則ったレベルにしていると思います。表水から採るより下からとった方がコスト的に安いような気がします。汚れの度合いも少ないです。

【委員】 1位になったから箔がついて市役所の中では焦っているような気がします。昭和の名水百選と言っていた時代では、何となくおいしいですよという程度でよかったです。日本一になってからは日本一の水とは何かを模索を始めているけれど答えがなかなか見つからない感じです。

【事務局】 何がどこまでできるか、付加価値化の部分の検討が強くなってくるのかと思います。1位をとったというのは事実としてあって、何かやるにしても可能性の整理をして、付加価値化を打ち出していく部分があるのであれば、1位をとって間もないこの時期にやっていければと思います。

【委員】 得票数は2位と6倍くらいの差がありますね。

【部会長】 組織力がとてもある。

【委員】 実は、青年会議所で日本一になっても何も動きがないから何かやろうという話があり、今年は日本一おいしい水を使った水鉄砲大会をやります。7月末秦野市に後援して頂いてカルチャーパークで行います。ブランドというのは民間がどれだけおいしい水を使おうかと考えてくれるのが一番ですね。秦野ブランドと言われましたが、正直よく分かりません。取って付けたようにブランドがあるから集めてくださいとなっても魅力がないです。人々がおいしいねというのが広がってブランドになりますが、逆をやるとブランドではない。一つでも二つでも民間の人が取り上げてくれるような入り口を作つてあげるだけ

で、市役所の方が動いてくれると良いのかなと思います。

【委員】 ペットボトルではなくて10L、20Lの単位にして民間のラーメン屋やコーヒーショップに売ったほうが需要があるのでないでしょうか。護摩屋敷は列をなして車で横浜などから取水にきています。20Lのタンクを車にいくつも積んで持ち帰るのに順番待ちをしています。護摩屋敷の水はブランド化されています。チップ塔はありますがタダですので欲しがります。護摩屋敷の水とすると売れるかも知れない。500mlのペットボトルではコーヒーもお茶も入れられないので買う人はいないです。

【委員】 ターゲットは絞られているほうが良いので、ペットボトル事業でいきましょう。

【部会長】 次回と次々回で関連した事業を紹介していくと良いと思います。

【事務局】 事前に必要な資料があれば、御連絡いただければ担当課に声かけ準備させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

【部会長】 水に近いプロの方や市民感覚の議論もできそうな気がしますので、面白い議論ができそうです。それでは本日は以上で終わります。ありがとうございました。

— 閉会 —